

## 経済発展省見通し修正

ロシア経済発展省は、12月16日、「2010年～2013年のロシア社会経済発展見通し」の修正を公表した（図表）。

図表：「2010年～2013年のロシア社会経済発展見通し」主要指標比較

	2010		2011		2011		2012	
	修正前	修正後	修正前	修正後	修正前	修正後	修正前	修正後
ウラル原油価格, \$/バレル	75	77.5	75	81	78	83	79	84
インフレ率, %	7～8	8.3～8.5	6～7	6～7	5～6	5～6	4.5～5.5	4.5～5.5
平均為替レート, \$/ユーロ	1.3	1.33	1.24	1.3	1.25	1.3	1.3	1.3
平均為替レート, \$/Rub	30.4	30.4	30.5	31.3	30.7	31.3	31.0	31.6
GDP 成長率, %	4	3.8	4.2	4.2	3.9	3.9	4.5	4.5
鉱工業生産率伸び率, %	7.6	8.3	3.9	4.1	3.8	3.8	4.9	4.7
固定資産投資増加率, %	2.5	5.9	10	9	3.5	4	7.4	7.4
実質国民所得増加率, %	4.4	3.8	3.6	3.3	3.6	3.6	4.2	4.2
実質賃金上昇率, %	4.9	4.2	3.5	3.2	4	4	4.7	4.7
小売売上高増加率, %	5.2	4.5	5	4.8	5.6	5.6	6	6
輸出, 億ドル	3,782	3,947	3,892	4,143	4,118	4,348	4,320	4,554
輸入, 億ドル	2,410	2,486	2,775	2,862	3,031	3,153	3,340	3,523

出所：経済発展省

原油価格の高騰を受け、2010年の原油価格は77.5ドルと今年秋の予測から2.5ドル上方修正された。2011年も81ドルと前回予測比6ドル上昇、2012年～2013年も同じく5ドル引き上げられた。これによる歳入増は2011年だけで5,000億ルーブル見込まれる。

また、為替についてもルーブル安を見込み、2012年までの予測レートが引き下げされた。

今年のGDP成長率は4%→3.8%へ引き下げられ、国民所得、賃金増加率予測も2010年、2011年と引き下げられている。

原油価格上昇、ルーブル安、輸出、鉱工業生産の増加の一方で、国民の所得増加のペースが鈍化する見直しとなり、一部に「国家予算が勝者、国民が敗者」といわれている。

経済発展省 HP には計表のみ掲示されており、見直しの根拠等に関するコメントはない。報道によるとクドリン財務大臣が経済発展省の今回の見直しを批判している模様。批判の内容は原油価格の上方修正への疑問と、また、米国の財政赤字や量的緩和（QE）の影響の見極めが必要で、見通しの修正自体が時期尚早であるというものである。特に原油価格については、経済危機前の教訓から保守的な見方をすべきと主張しており、現在の価格上昇は加熱気味であり、これにもとづく原油価格予測を予算作成の基礎とすべきではないというものである。

これに対し経済発展省のクレパチ次官は、今回の原油価格予測自体も保守であり、実際はさらに高騰する可能性があるとしており、両者の見方が分かれている。

財政赤字の削減を優先する財務省と、経済成長を重視する経済発展省の主張が対立しており、クドリン財務大臣が提案している VAT 税率引き上げ及び年金需給開始年齢引き上げ案に対し、ナビウリナ経済発展大臣は明確に反対の姿勢を表明している。2010 年の財政赤字の見込みについても、財務省は GDP の 4.3%～4.5%と見ているのに対し、経済発展省は 3.8%と評価している。

以上